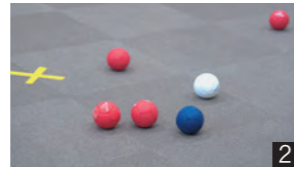




1 高ヶ坂・成瀬地区第1回ポッチャ大会 成瀬団地自治会チーム。
2 ポッチャで使用するボール。赤チームと青チームに分かれ、交互にボールを投げる。
3 成瀬コミュニティセンターで活動するポッチャ部の様子。



和気あいあいとした雰囲気健康増進を

水曜日の午後、成瀬コミュニティセンターから楽しげな声が聞こえてくる。2020年から始まった高ヶ坂・成瀬地区協議会のポッチャ部の活動だ。ポッチャは、すべての人が一緒にできる手のひらサイズのボールを使ったスポーツ。月4回、毎回10人程度が参加するこのポッチャ部を立ち上げたのが田辺一成さんだ。知人から誘われて約25年前から青少年健全育成地区委員会の活動にかかわるようになり、定年退職を迎えた7年前には会長に就任した。以降、地区協議会の副代表も務

めるなど地域活動中心の生活になった。青少年健全育成地区委員会の「ふれあい子ども祭り」でポッチャを知ったことをきっかけに部の立ち上げ準備を始めた田辺さん。5年前にウォーキング中に倒れ、一時的に意識を失った自身の経験が大きな原動力になったという。「ご高齢の方も外に出て、軽い運動をして健康増進に役立ててほしいです。」と真剣なまなざしで語る。また、単に運動するだけではなく人と人の交流も大切に、和気あいあいとした雰囲気づくりを心掛けているという。実

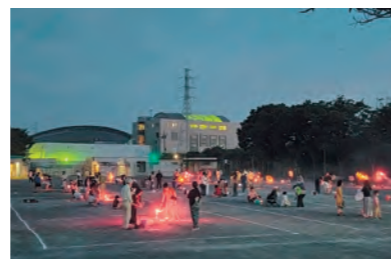
際、練習を見学させてもらおうと参加者への田辺さんの優しい声かけが聞こえてくる。昨年12月には、高ヶ坂・成瀬地区第1回ポッチャ大会も開催。南第二小学校の体育館を会場に、ポッチャ部をはじめ12チームが参加した。また、最近では近隣小学校から授業の一環としてポッチャ教室を頼まれることもあるそうだ。今後も地域のポッチャ人口を増やしていき、ポッチャをきっかけとした地域のつながりを作っていきたいと田辺さんは意気込みを語る。



ふれあい子ども祭りで行った鬼ごっこ「逃走中」。サングラスをかけた鬼役のハンターがスタートの準備をする。



ふれあい子ども祭りのスポーツコーナー「ストラックアウト」の様子。



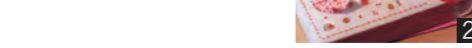
青少年健全育成南第二地区委員会の「夏休み子ども花火会」の様子。

大きな家族のような関わりを

鶴川駅のほど近くに位置する和光大学ポブリホール鶴川。ここで毎月第3水曜日に開かれる交流拠点の場「3水スマイルラウンジ」にはさまざまな人が足を運ぶ。その会場の一角でスマートフォンの使い方を教えているのは、

和田智恵子さんだ。「販売店だと聞きづらいことでも、私は同じ目線で教えられるでしょう。後日ご家族とビデオ通話ができたと聞くと嬉しいです。」と話す和田さんには初めて会った感じがしない親しみやすさがある。

鶴川で生まれ育つ中で感じてきた、地域全体が一つの家族であるかのような雰囲気。そんな「大きな家族のような関わり」を大切にする和田さんの思いは、鶴川団地で開いている音楽教室の仕事にも息づいている。障がいがあ



3水スマイルラウンジの様子。
1 折り紙教室 2 作成した折り紙の花
3 スマホ教室 4 全景

る子どもも分け隔てなく受け入れ、限られた指を動かすのが精一杯だった肢体障がいがある生徒が、ピアノの練習を通じて1年後には全ての指を動かせるようになったことも。「ハサミの持ち方が上手になったと学校の先生に褒められたと聞いたんです。そういうのを聞くと嬉しいです。音楽を通じてこんなことができるんだって。」と和田さんは自分のことのように嬉しそうに話す。また働く親御さんのために保

育士資格を取得し、ピアノレッスン時の子どもの送迎や預かりのサービスも始めたそうだ。和田さんが地区協議会に関わるようになったきっかけは、地域でお世話になってきた方々に楽しんでもらえるコンサートをやろうと立ち上げた「NPO法人まちだ音の環」での活動だ。地域の高齢者施設でボランティア演奏をした際に声をかけてもらったという。地区協議会では今年、コロナ禍を経て4

年ぶりの音楽祭を行う。そこでも家族のような温かな雰囲気でも来た人を迎え入れてくれるだろう。



NPO法人まちだ音の環のステージカーで地域に音楽を届けている。

